

カラスはなぜ上諏訪駅をねぐらとするのか

長野県諏訪清陵高等学校生物部 代表 河西宏樹他5名

1 要旨、概要

カラスは非繁殖期の冬期は大きな集団でねぐらをつくる。長野県では、数年前からカラスが「駅」をねぐらとするようになった。1960年ころの調査(平林浩(2006)『人権と教育』障害者の教育権を実現する会)によると諏訪、茅野周辺のカラスは山梨県北杜市茅ヶ岳まで移動して、その山麓の山林をねぐらとしていたという記録がある。なぜカラスたちは以前とは対照的な環境である夜でも明るく人が多い「駅」をねぐらに選んだのだろうか。この疑問を解決すべく、平成24年12月～平成25年2月、平成25年12月～平成26年2月にかけての冬季に調査を行った。

2 研究目的

本研究では、時間をかけてカラスの様々な行動を観察し、以下の2つの調査を実施して課題の解決に取り組んだ。

〈調査1〉カラスはなぜ駅をねぐらとするのか。 〈調査2〉なぜ上諏訪駅をねぐらとするのか。

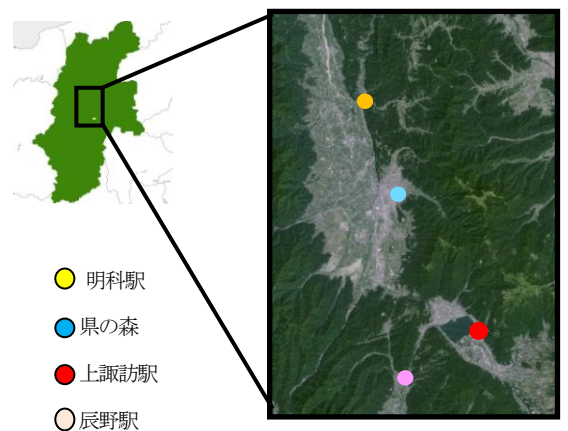
3 研究方法

〔調査1〕の調査方法

- ①上諏訪駅のどの場所に集中して集まるのかを調べた。
- ②明け方のカラスの行動を知るために、朝4時～7時に駅周辺で観察を行った(上諏訪ステーションホテル上階利用)。
- ③上諏訪駅に集まるカラスは日中どこにいるカラスなのかを知るために、生物部員が諏訪市周辺地域(富士見、茅野、諏訪、下諏訪または、茅野、諏訪、下諏訪、岡谷、辰野)に分かれて、夕方ねぐら入りするカラスを同時に双眼鏡などを使い観察し、飛翔方向・個体数を記録した。

〔調査2〕の調査方法

なぜ近隣の茅野駅や下諏訪駅ではなく、カラスは上諏訪駅を選んだのだろうか。〔調査1〕より、岡谷・下諏訪・諏訪・茅野・辰野周辺のカラスのねぐらは主に上諏訪駅・辰野駅と付近の大城山の2カ所存在することが分かったが、中南信ではその他にも明科駅とあがたの森公園がカラスのねぐらとして有名である。そこで、これら4つのねぐらに共通して存在し、それに対して近隣の下諏訪駅や茅野駅、松本駅など他の場所にはない何かがあるのではないかと考え、これらの場所に行きねぐらの場所とその周辺の環境の調査を実施した。



4 結果

〔調査1〕の結果

- ①上諏訪駅周辺におけるカラスの密集地点について。この調査は、午後7時頃と午前3時頃にそれぞれ複数回行った。カラスは駅のホームの両端(A地点、E地点)の、線路の分岐点の架線に多く集まっていたほか、駅西口側の住宅地の電線(B地点、D地点)や、信号機の真上の電線(C地点)でも見られた。線路の分岐地点や信号機上の電線は照明により明るくなっており、また車や人の往来が周辺と比較して多く見られる場所であり、カラスはそこに集中する傾向がある。



- : カラスが多数観察された場所
- : カラスが少数観察された場所
- ★ : 主な観察地点

②上諏訪駅における早朝のカラスの行動について

この調査は平成26年2月に5回行った。明け方になると、カラスは鳴きはじめ、6時頃一斉に飛び立った。その後、そのまま遠くへ飛んでいくカラスと、30分～1時間ほど付近の建物にとまるカラスの二通りのパターンがあった。

③諏訪市とその周辺地域におけるカラスの行動について

岡谷・下諏訪・諏訪・茅野・富士見・辰野周辺で調査を実施した。この調査は平成25年1～2月、平成26年1月に行った。その結果、上諏訪駅をねぐらとしているカラスは主に茅野・諏訪・下諏訪で日中過ごしている個体であることが分かった。岡谷では、上諏訪駅へ向かうカラスは2～3つがい程度であり、多くは観察されなかった。辰野での調査では、同時刻に辰野駅に沢山のカラスが集まる様子が観察された。日没後、一部のカラスは、付近の大城山へ向かった。上諏訪駅から直線距離で13kmと比較的近い場所に別のねぐらがあることが分かった。辰野駅と大城山に集まるカラスの羽数は上諏訪駅よりも少ない。なお、富士見町では、日中からカラスの姿を見ることが出来なかった。

右図は、調査地域のカラスの移動経路の概要である。各観察場所の中で、上諏訪駅周辺(A)に集まるカラスと茅野駅周辺(B)を移動するカラスが最も羽数が多く、移動経路が明確であった。なお、赤点は上諏訪駅の位置である。



〔課題2〕の結果

上諏訪駅など4か所に共通して存在し、他の駅にはないものは「大きな樹木」である。・上諏訪駅…西口(大手町)にケヤキ並木が広がっており、大きなケヤキの木がたくさん植えられている。・辰野駅……前述の通り、付近に大城山がある。大城山もカラスのねぐらとなっている。・明科駅……背後に山がある。・あがたの森公園…公園全体に沢山のヒマラヤ杉やケヤキが植えられていて、そこがねぐらとなっている。周辺は市街地である、明るく人通りも多い。この点が駅と共通している。

5 考察 ～〔調査1〕、〔調査2〕の結果から～

〔調査1〕の結果から、カラスが駅をねぐらとするようになった原因は、第1次産業が衰退し、人の自然環境や農業に対する害鳥としてのカラスへの関心が低くなったためではないか。「夜でも明るく人の多い駅」をねぐらとした方が、森林に比べてオオタカやハヤブサなどの天敵が少なく、人間の出すゴミが餌となるなど生活しやすいためではないか。近年電柱に営巣することが増えており、電柱につくられた巣の除去作業が全国各地で本格的に行われている。この除去作業は人への警戒心を再び、高める効果があるのではないかと考える。

〔調査2〕で行った調査では、カラスのねぐらとなっている4か所には共通して付近に沢山の大きな樹木があることが分かった。それに対して茅野駅や下諏訪駅など、ねぐらとなっていない駅を観察してみるとそのような樹木は見られない。

6 結論

- ① 岡谷・下諏訪・諏訪・茅野・富士見・辰野周辺のカラスは、上諏訪駅、辰野駅をねぐらとしており、茅野駅、下諏訪駅など他の駅はねぐらとしていない(岡谷のカラスがいずれの駅をねぐらとしているのかは確認できなかった)。
- ② カラスが駅をねぐらとする理由の一つは、人が多く明るい場所をねぐらとすることで、天敵から身を守るためである。
- ③ カラスは人がいて、周囲が明るく、かつ樹木がある場所を選んでねぐらとしている。
- ④ カラスが茅野駅や下諏訪駅でなく、上諏訪駅や辰野駅に集まるのは、付近に沢山の樹木があるからである。

以上の条件を満たしているため上諏訪駅はねぐらとなっていると考えた。

7 参考文献

・柴田 佳秀(2007) 『カラスの常識』 寺子屋新書 ・宮崎 学(2009) 『カラスのお宅拝見!』 新樹社

地図・航空写真: google map, google earth, 株式会社ハクトートータルサービス web サイト

協力者 動物写真家 宮崎 学さん ・上諏訪ステーションホテル様(観察場所提供)・JR 東日本 明科駅

(指導教諭 伊藤広昭)